

後世に伝える

—三豊市の文化財— 前編

三豊市の文化財には、国宝の本山寺本堂をはじめとして国・県・市合わせて171点もの指定文化財と6点の登録有形文化財があります。この大切な財産を守り、受け継ぎ、そして後世に伝える人たちがいます。
今月号と来月号では『県指定無形民俗文化財を守る人たち』を紹介します。

家浦二頭獅子舞保存会



▲笛や太鼓、摺鉦に合わせて雌雄二頭の獅子が勇壮闊達な舞いを披露

起源は約1300年前

家浦二頭獅子舞の起源は大変古く、聖武天皇の神亀年間（724～729年）に船越八幡宮に御神霊が御遷座された際に、家の浦の獅子がお供をつとめたのが始まりと伝えられています。猛々しく勇壮な舞い振りには武道の流れをくみ、流儀は『古流小笠原獅子』といわれています。

古くは、神事だけに行われていましたが、現在は除災招福、五穀豊穡、家内安全などを祈願するようになりました。



▲唐子の衣装は今も同じに（昭和5年に撮影）

青年会を中心に継承



インタビュー

家浦二頭獅子舞保存会
会長 岡田旭倫さん

▼自治会みんなで守る獅子舞

会長は、自治会長が交代で務めていましたが、4～5年前から固定し、規約整備や収支決算もしています。獅子舞は地元で伝わる伝統文化。家の浦自治会の約30軒で守り続けています。

▼青年会が中心になって

青年は、昔は中学から稽古獅子を遣っていました。低い姿勢がしんどくて頭があがってくると、先輩に頭を油単の上から太鼓のバチで思い切りしばかれて痛かったことを覚えています。今は当然そんなことはしませんがね（笑）

▼最近子どもが少なくて

太鼓打ちには、唐子衣装を身に着けた幼稚園から小学校低学年の子もたちが3人で行います。昔は男子のみでしたが最近はその中でもなく、今年は女子のみ。子どもが少なくなってきたんでね。

▼獅子舞の演舞は約20分

雄獅子は、頭と油単で105kg、雌獅子でも10kgくらいあります。特に油単は全身に金糸で刺繍が入りとても重い。演舞時間は20分程度で、人（獅子）の一生を表しています。1頭を2人で遣い、半分の時間で前後交代します。後ろの人がうまかったら遣いやすいんですよ。

今年は春にイベントへの出演などもあったので、練習は6月頃から始めました。ふだんは9月に入ってから月曜から金曜の夜に行っています。

▼伝統が途絶えないように

一時獅子が途絶えた時期もありましたが、若手も伝統が途絶えないようにがんばってくれています。家の浦の獅子は昔ながらの使い方、低く



▲先輩方に負けずにこれからもがんばります

家浦二頭獅子舞を見るには

船越八幡宮秋の大祭

日時 10月4日（日）午後1時～

場所 船越八幡宮（詫間町大浜境内）

大將軍神社秋の大祭

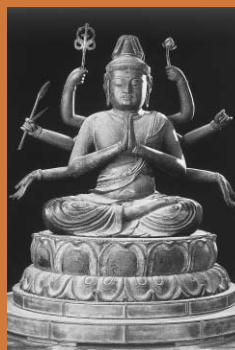
日時 10月12日（月）祝午後1時～

場所 大將軍神社（仁尾町家の浦境内）

三豊市の文化財一覧

有形文化財【建造物】

- | | | | |
|----|-------------------------|----------|---|
| 1 | 本山寺本堂……… | 国 | 宝 |
| 2 | 本山寺二王門……… | 重要文化財 | |
| 3 | 寛政院鐘楼……… | | |
| 4 | 常徳寺円通殿……… | 県指定有形文化財 | |
| 5 | 勝造寺層塔……… | | |
| 6 | 本山寺鎮守堂……… | | |
| 7 | 石造五輪塔……… | 市指定有形文化財 | |
| 8 | 賀茂神社の注連石……… | | |
| 9 | 石造層塔……… | | |
| 10 | 本門寺開山堂……… | | |
| 11 | 花立碑……… | | |
| 12 | 新田神社本殿……… | | |
| 13 | 宝光寺観音堂……… | | |
| 14 | 田井の薬師堂……… | | |
| 15 | 石造宝塔……… | | |
| 16 | 履脱八幡神社本殿……… | | |
| 17 | 鎌八幡宮・財田の碑……… | | |
| 18 | 大久保護之丞顕彰碑……… | | |
| 19 | 一石一字宝塔……… | | |
| 20 | 財田和泉守常久の墓……… | | |
| 21 | 粟島達磨寮……… | | |
| 22 | 絹本着色八相涅槃図……… | 市指定有形文化財 | |
| 23 | 絹本着色十三仏図……… | | |
| 24 | 麻布着色釈迦太子菩薩十六羅漢図（詫間町）……… | | |
| 25 | 木造不空羅索観音坐像……… | 重要文化財 | |



吉津夫婦獅子舞保存会

4つの組がそれぞれ継承

三野町吉津にある八柱神社の秋の祭礼で吉津夫婦獅子舞は奉納されます。

吉津夫婦獅子舞は、今から400年ほど前(江戸時代前期)に、仁尾・詫間地域からその技法が伝えられ、吉津地区において伝承されてきました。

現在は、北村・正本・大原・谷円の4組によって継承されています。4組とも雄と雌の2頭の獅子、大太鼓2つ、陣太鼓4つ、ジャンジャン(銅拍子)2つで演奏し、北村・大原は笛も使います。獅子頭は、雄は頭髪が茶色で、雌は黒です。胴体にあたる油単は獅子組によって黒・赤・茶の組み合わせが異なります。

獅子舞の芸は、幼年期(無邪気な獅子と太鼓打ちが戯れる・思春期(雌が背返りなど細かな姿を見せ、雄が威厳に満ちたような勇壮な振る舞いを魅せる)・青年期(2頭が結ばれる)・壮年期(落ち着きを見せゆったりとしたところを演じる)・老年期(神の御前に平伏する)を順に演舞し、獅子の一生を表現します。大正時代は4組とも獅子は1頭で、2頭使う夫婦獅子になったのは昭和の始めのころだそうです。



▲獅子頭は雄が茶色、雌が黒色

▼保存会のお世話を始めたのは
前任者が退く時に、無形民俗文化財指定申請当時の話を知っているのが、もう自分だけが残っていませんでした。もともと獅子が好きでしたし、父が申請を行った関係もあって、なんとか昔のままの形で残していきたいかったので代表を引き受けました。

この辺りの獅子はすべて小笠原流ですが、特に正本は『七宝系小笠原流』と呼ばれています。獅子頭は『猫獅子』と言って顔に毛が生えて牙の間に小さな歯が生えています。1回の演舞は40分、

子や孫の末代まで 続けてほしい



インタビュー
吉津夫婦獅子舞保存会
代表 大西 明さん



▲八柱神社では4組の獅子舞の共演が見られます

吉津夫婦獅子舞を見るには
八柱神社秋の大祭
日時 10月4日(日)午後2時30分
場所 八柱神社(三野町吉津境内)



北村組



谷円組



正本組



大原組



大原組



大原組

間ほです。時間的には長いですが、雄獅子と雌獅子が別の動きを舞うので、一方が舞っている間に一方は休んでいます(笑)

▼練習に明け暮れた青年時代
獅子を始めたころは満足に舞えないので本獅子(祭り本番で使う獅子)を触らせてもらえませんでした。3年間は古いボロボロになった練習用の獅子頭や太鼓のバチを2本手に持って練習をしました。初めてまともに舞えるようになったのは4年目。そのころにやっと本獅子に触らせてもらえるようになりました。初めて触らせてもらったときは、本当にうれしかったです(笑)

▼思い出の天覧獅子舞
昭和天皇が四国巡幸にいられた際に見ていたことがありません。その際に勅許賞をいただきました。大変貴重なものでありがたいことです。

▼各方面で演舞して
地元の八柱神社への奉納はもちろんのこと、県内外のイベントや催し物に出演しています。依頼があつた際には、4獅子組で順番に出演しています。より多くの方に見ていただきたい思いもあるので、依頼があれば、できる限りはお応えするようにしています。

▼将来に向かって
獅子の遣い手は、45歳で定年です。地元の若い衆ががんばってくれているので、この先も子や孫の末代まで獅子舞を続けていってほしいと思います。

獅子舞は、伝統だけでなく、みんなの絆を強くします。親子ほど年が離れた者が寄って話をしたり、集まったりする場となっていることは大変いいこと。獅子を通じて世代を超えた交流をこれからも続けていきたいですね

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|----------|-------|-------|----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|-------|-------|-----------|-----------|-----------|-------|-----------|----------|----------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 59 | 58 | 57 | 56 | 55 | 54 | 53 | 52 | 51 | 50 | 49 | 48 | 47 | 46 | 45 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33 | 32 | 31 | 30 | 29 | 28 | 27 | 26 | |
| 梵鐘 | 石造宝塔 | 梵鐘 | 市指定有形文化財 | 石燈籠 | 金銅五鈹鈴 | 銅造観音菩薩立像 | 木造毘沙門天立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造金剛力士立像 | 木造金剛力士立像 | 銅造誕生釈迦仏立像 | 木造狛犬 | 木造 | 木造阿彌陀如来坐像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造聖観音菩薩立像 | 本地仏 | 木造十一面観音立像 | 市指定有形文化財 | 木造毘沙門天立像 | 塑造釈迦涅槃像 | 木造阿彌陀如来坐像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 | 木造阿彌陀如来立像 |
| (詫間町) | (高瀬町) | (山本町) | (山本町) | (高瀬町) | (三野町) | (三野町) | (仁尾町) | (仁尾町) | (仁尾町) | (仁尾町) | (高瀬町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (高瀬町) | (高瀬町) | (高瀬町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) | (三野町) |



▲神事は御神船が町内巡行している間に執り行われます

私は、退職後37年振りに仁尾へ戻った平成12年に保存会へ入り、今年で9年目になります。

▼なり手をさがすのに一苦労

もともとは、讃岐守護職細川氏の使者を接待してもてなしたことが元となった神事なので厳肅な中で行われます。神霊を乗せた御神船が神社を出て町内を巡行し、戻るまでの1時間半ほどで行います。



インタビュー
賀茂神社長床神事保存会
代表 塩田富雄さん

伝統を守るだけでなく
時代にも対応して

9月1日にオクジイレ（くじ引き）を行い、頭屋（こづや）の中から頭人5人を選びます。しかし、最近は一度なったら同じ人はなれない規則や、なり手不足で5人を選ぶのも大変（笑）

神事のお世話をする年寄の定数は10人ですが、現在は7人です。年寄は頭人の経験者の中から決まり、準備から当日の運営まですべてを取りしきります。年中を通して、落ち葉かき、草抜きなど神社境内の維持管理もしています。

▼時代に対応して

この神事の特徴は五苗（ごみょう）と呼ばれる特定の家から選ばれた10人の年寄と5人の頭人によって祭りが執り行われることです。また神事の内容も県内には例がなく、大変貴重なものとなっています。しかし、なり手不足の現状に対応するため、数年前より五苗制度にこだわらず、氏子であれば誰でも参加できるようにしました。

年寄も頭人も、いかに後継者を見つけて伝えていくかが、今後の課題です。時代に対応して、少しでもやりやすくなるように改善しているんですね（笑）

賀茂神社長床神事を見るには
賀茂神社秋の大祭
日時 10月11日（日）午前10時頃
場所 賀茂神社（仁尾町）境内

「三豊市の文化財」好評発売中!!

今回の特集でも引用・参考にした『三豊市の文化財』。市内に所在する文化財177点のすべてをカラー写真と文章で分かりやすく紹介しています。

1冊1,000円
フルカラー 全164ページ A4版

▲問い合わせ 生涯学習課 ☎62-1113



来月号は
『讃岐源之丞保存会』
『生里ももて祭保存会』
『大浜ももて祭保存会』
『栗島ももて祭保存会』
『彌与苗踊保存会』の皆さんを紹介

10月は市内各地で五穀豊穡を祈って秋祭りが盛大に行われます。ちよつと隣のお祭りに出かけてみませんか。文化的な視点で見ると、それぞれの地域の特色が表れていて、新しい発見があるかもしれません。

12月号からは、三豊市の文化財を紹介するコーナーが始まります。お楽しみに。



▲全員が袴に身を包み 厳肅な中で行われています



▲ハナデン（天狗）は七度半使いをします

県内では類例を見ない神事

賀茂神社は、京都・賀茂神社の御分霊を応徳元年（1084年）に薦島に祀られたのが始まりで、その後しばらくして現在地に鎮座したと伝えられています。

長床の神事は、賀茂神社の祭礼の当日（10月の第2日曜日）に御神船が町内巡行に出発した後に、長床という建物内で行われます。

正面に年寄、左右の両脇に頭人が座り、舞酌（まいしやく）と称する袴を着た6人の子どもが酌（しやく）をしていき、さらに謡曲（うたかた）の『薦加茂（つたかも）』が謡われます。やがて御神船が鳥居まで戻るとハナデン（天狗）が長床に行き、「御神船が帰ってきたので、早く出迎えるように」と催促します。しかし、年寄も頭人ももてなしが、まだ十分でないといふ返します。これを七度半繰り返したあと、年寄と頭人が御神船を迎えます。

※来月号では、有形民俗文化財・無形民俗文化財記念物（史跡・名勝・天然記念物・登録有形文化財の）一覧を掲載します。	82 大辻の鋳物製造法………（山本町） 無形文化財 市指定無形文化財	78 本山寺蔵経文板木………（豊中町） 市指定有形文化財 79 吉祥院蔵棟札………（仁尾町） 名部戸天満宮奉納算額………（詫間町） 青い目の人形………（仁尾町） 無形文化財	77 スギヤマ ソウの 象牙化石 ………（山本町） 有形文化財【歴史資料】 県指定有形文化財	76 縄文土器 （詫間町） 市指定有形文化財	75 妙音寺出土古瓦………（豊中町） 有形文化財【考古資料】 県指定有形文化財	74 安藤家文書………（高瀬町） 73 白井家文書………（高瀬町） 72 森家文書………（高瀬町） 71 本門寺文書………（三野町） 70 熊岡八幡宮文書………（豊中町） 69 常徳寺文書………（仁尾町） 68 賀茂神社文書………（仁尾町） 67 算城院文書………（仁尾町） 市指定有形文化財	66 秋山家文書………（高瀬町） 県指定有形文化財	65 大坪村両社記………（山本町） 有形文化財【古文書】	64 仏説観仏三昧海経巻第二（三野町） 市指定有形文化財	63 双聲………（仁尾町） 62 梵鐘………（仁尾町） 61 大壇………（高瀬町） 60 陶製狛犬………（高瀬町） 有形文化財【書跡】 県指定有形文化財
---	---	--	---	--	--	---	---	--	--	--